

## ホスピス外来担当のお知らせ

ホスピス外来は午前診察のみです。新患予約は1日2人、再診予約は1日3人までとなっています。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前 診察時間 9:30~12:30		奥野		細井	奥野	

お問い合わせは 0748-32-5211 (病院代表) 病診連携課まで

## ライラックの会のお知らせ

当院ホスピスでは、前年度にホスピスから旅立たれた患者様のご家族様を対象に例年、「こもれびの会」というご遺族様の会をグリーンホテルで行ってまいりました。しかし、この2年近くはコロナ禍ということもあり中止しております。このような状況の中、ご家族様の中で体調や心の不調を感じておられたり、「ちょっと話をしたいな」

と思っておられるご家族様のために、「ライラックの会」という場を設けております。ホスピススタッフと患者様の思い出を語ったり、共に悲しみを分かち合える場になればと願っています。「行ってみたい」と少しでも思われた時には、どうぞお気軽にお越し下さい。

遺族係 長岡

### 2021(令和3)年度 利用状況

・年間入院患者数	275名
・年間退院患者数	272名
・他院からの転院数	90件
・病床稼働率	80.8%
・平均在院日数	17日
・在宅復帰率	43%

### 2021(令和3)年度 ホスピス賛助会収支報告

前年度繰り越し	6,362,116円
個人会員	530,000円
法人会員	0円
受取利息	47円
合計	6,892,163円

### 賛助会のご案内

#### 賛助会のお知らせ

ホスピスのよりよい運営のために、皆様からのご支援をお願いしております。ご支援下さった方々には、ホスピス通信・研修参加案内・催事・活動参加案内などをお送りいたします。ご案内する催しなどにご自由にご参加いただけます。



#### 賛助会への入会

振込み用紙にて会費の振込みをもって、入会とさせていただきます。

#### 賛助会費(年会費)

個人 一口 1,000円  
法人(団体) 一口 10,000円  
いずれも何口でも結構です。

#### お問い合わせ先

〒523-0805 近江八幡市円山町927番地1  
tel.0748-32-5211 (代表)  
担当：澤谷まで

## ホスピスボランティア募集!!

お花のお世話、ティーサービス、お話し相手、料理、お菓子作り、行事のお手伝いなど、一緒にケアに参加して下さる方を探しています。学生ボランティアも歓迎!!



連絡先 0748-32-5211 (代表) 担当：野村まで

## 編集後記

この北之庄で16年間綴られてきた希望館の物語は10月末に完結します。

11月からは円山の地で新たな物語の数々が綴られていくことでしょう。今後とも、よろしくお願い致します。



ヴォーリス記念病院ホスピス 2022年11月1日発行

# 希望館だより

第26号

発行元 ヴォーリス記念病院 〒523-0805 近江八幡市円山町927番地1



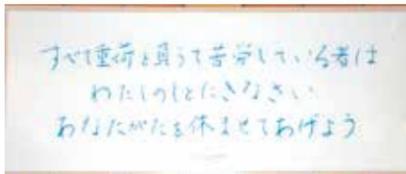
Vories

ホスピス希望館

# ホスピス希望館 16年の歩み

- 1993年 ターミナルケア委員会発足
- 2002年 細井順医師着任
- 2006年 ホスピス希望館開院  
(記念講演: 柏木哲夫先生)
- 2007年 ホスピス1周年記念講演会  
(記念講演: 日野原重明先生)
- 2013年 「いのちが一番輝く日」上映
- 2014年 奥野貴史医師着任
- 2016年 ホスピス10周年記念講演会  
(記念講演: 柏木哲夫先生)

## ★クリスマスローズ (瞑想室)



## ごあいさつ

ホスピス長 奥野 貴史

2006年10月にツッカーハウスの前に建てられたホスピス希望館は、多くの人のケアに携わってきました。ツッカーハウス側にある8部屋に入った患者さん方には、1918年に近江療養院として建てられたその建物から、肺結核がおそらく手術以外の治療法がなかった時代に、それでも人生を全うしてもらおうとしたヴォーリスさんの願いが甦せられ、それがみなに届いている気がしていました。駐車場側の8部屋に入った患者さん方には、目の前の樹々、その上に広がる空、風のざわめき、鳥や虫たちの声には、この北之庄という土地を選んだヴォーリスさんの想いが宿り、みなを見守ってくれている気がしていました。この地を離れるのはとても寂しいことではありますが、新たな病院に場所は移ってもヴォーリスさんの願い、想いを継承していきます。「キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を、医療を通して実践します。」という基本理念を念頭に、患者さんのみならず自分たちの「いのち」を守っていきます。そして、私たちのホスピスは「生と死を共にかんがえるところ」であり続けます。



## 人間を見つめて

医師 細井 順

当院にホスピスができたのは2006年でした。爾来16年間、求めてきたことは「人間を見つめて」ということでした。ホスピスの動きは、「その人がその人らしく尊厳を保って人生を全うすることを援助する」ことにあります。この動きのためには、病気を中心におくことではなく、その人の人生を中心におくことです。病気の経験は避けたい出来事ですが、将来に向けて充実して幸福な人生を過ごすためのヒントが隠されているのかもしれない。こう考えられたら病気の見方も変わってくるでしょう。ホスピスが目指す健康は五体満足ではなく、様々な葛藤から解放されることです。その方法は、病める悩める人たちと気持ちを通わせることです。病者と医療者が死の前では同じ限界を持つ人間同士としてであろうとき、互いに心が通います。病者と医療者という立場を越えてお互いを励まし支え、生と死を超えて遺された人々を支える力となり、後代にも連綿と繋がっていきます。2022年11月ホスピス希望館は、新たに新築移転されるヴォーリス記念病院ホスピスに引き継がれます。その精神は今後も変わることなく我々の人生をその足下から照らす灯火になることなのでしょう。



初代師長  
岡田 幸子

2006年10月1日、家庭の延長線上にある、地域に根ざした「ホスピス希望館」として、ホスピスケアをスタートいたしました。16年の時を経て、新病院移転と共に希望館の役割を終えることに開設メンバーとして感慨深いものを感じます。開設準備委員会から参加させていただき、「ホスピスケア」の原点と基本、そして何より「人と人の関わり」を大切にしたいスピリットを学ばせていただきました。沢山の方の大切な人生に寄り添いながら、生と死を共に考える時を与えていただいたことに感謝いたします。これからも、与えられた新たな場所で「ホスピスケア」は癒しの場として歩み続けます。



2代目師長  
増田 繁美

ホスピス立ち上げから9年半勤務した中でたくさんの方と出会い、いのちが一番輝く時にかかわらせてもらいました。当たり前な日常の尊厳を知り、生きることの意味を考え、人生の勉強をさせて頂き、人として大きな成長につながる時でした。広く明るく建物、家庭的な雰囲気の中で本当に職員も温かい気持ちで仕事をした事が懐かしいです。ケアの原点であるホスピスの心を忘れずに、様々な現場で継承していきます。ありがとうございました。



3代目師長  
村上 美香

2006年10月にホスピスが開設され、17年目になります。私は10周年を迎えた頃より3年間ホスピスでたくさんの事を学ばせていただきました。めまぐるしく社会情勢が変動していく中でも看護の原点は変わらないとホスピスで改めて感じ、看護とは何かを確認したように思います。ホスピスでの人との出会いがあり、たくさんの学び、何より自分を見つめる機会となったことに感謝しております。ホスピスも11月に新病院に移転します。たくさんの思い出とたくさんの人の思いの詰まったホスピス希望館とはお別れですが、新病院のホスピスにもしっかり受け継いで参りたいと思います。



4代目師長  
久城 亜也子

2018年4月から2022年3月までホスピスで勤務していた久城です。ホスピスには3年間お世話になりました。ホスピスでの3年間は、深く患者さまご家族さまの「その人らしさ」を考える機会となりました。希望館とは新棟の移転で一旦離れる事になります。しかし、希望館で教わった沢山の学び「その人らしさ」を大切にしたい、当院の理念「隣人愛・奉仕」の業を大切に引き継ぎ精進していきたいと思っています。



夏祭りにようこそ

## 患者さまと一緒に 楽しいひとときをすごしています



メリークリスマス!



鬼は外! 福は内!



## 希望館の意志を引き継いで

病棟師長 野村 嘉代

ホスピス希望館は、今年で創立16年目を迎えました。私はヴォーリス記念病院に勤めて22年、外来、一般病棟、回復期リハビリ病棟を経て、昨年ホスピスへ参りました。やはり、一般病棟とは違う終末期の緩和ケア看護の奥深さを日々実感している次第です。この4月からは、ホスピス病棟の師長となり、責任者としてますます重みを感じております。コロナ禍前は、ご家族やボランティアの方々のお入りもあり、賑やかな希望館だったと聞いていますが、現在は人の出入りもなくひっそりと静かに佇んでおり、一日も早く本来の姿に戻れることを願っています。この度、11月にホスピス希望館も新病院の中へ移転することとなりました。独立型の家庭的な雰囲気のある希望館の良さを引き継ぎ、温かいホスピス病棟となるよう、先生方、スタッフ共に一丸となって築いていきたいと思っています。今後も患者様、ご家族様から愛されるホスピスを目指します。



## ホスピス希望館によせて

緩和ケア認定看護師 谷川 弘子

ヴォーリスホスピス希望館を立ち上げて、早16年が過ぎました。滋賀県では唯一の院内独立型ホスピスとして開設し、職員一丸となってホスピスケアに進進してきました。開院時の喜びは今も胸にあります。ホスピスケアとして症状緩和はもちろんですが、人として尊厳を持って、その人らしく最期まで過ごせるようにケアにあたるのが何より大切な事と感じております。このホスピスでお会いした患者さんやご家族の皆さんを通し、いろんな事を学ばせていただきました。人は人の温もり(優しさ)で癒されるもの。また、私たち医療者は患者さんやご家族を支えているようで、逆に支えられているのだということ。たくさんの患者さんやご家族の出会いは、私の人生の宝物です。この先、高度な技術や科学が発達しAI化が進んだとしても、人の温もり(優しさ)に勝るケアは無いでしょう。ホスピスの語源はおもてなしのこころです。今、原点に立ち還りこの意味を深く胸に刻み、16年共に歩んだホスピス希望館に感謝し、新たなヴォーリスの歴史に身を投じていきたいと思っています。

## 新しい仲間



看護師 磯部 美穂

ホスピス病棟は、家みただな、温かい空気が流れているなどという印象を持ちました。4年のブランクがあり、不安でしたが、スタッフの笑顔を見て、安心しました。ホスピスケアについて学び、患者様から、この人にケアされたいと思われるよう、日々、人間性を高め、看護の質を高められるよう、努力していきたいと思っています。



看護師 河島 友紀

ここホスピスは、今まで関わってきた急性期看護とはまた違った観点から患者様、家族様と関わっていく中で考え方が正反対違ったりすることもあります。戸惑いを感じつつも一緒に働く医師や優しい先輩達の関わりを勉強しながら、私なりの看護が出来れば良いなあと思います。いつでも笑顔が忘れず安心感を与えられるような存在でありたいです。



介護福祉士 上岡 ひろみ

ホスピスでの配属は初めてですが、患者様に寄り添い穏やかに過ごすことが出来るよう、笑顔が見えるようなケアのお手伝いをさせて頂けたらと思っています。どうぞよろしくお祈りいたします。